

形容詞活用

<https://prowriters.jp/grammar/adjective> と https://prowriters.jp/grammar/adjectival_noun と https://prowriters.jp/grammar/pre-noun_adjectival と <https://ja.wikipedia.org/wiki/形容詞> と <https://ja.wikipedia.org/wiki/形容動詞> と <https://ja.wikipedia.org/wiki/連体詞> による

形容詞（イ形容詞）

未然形	連用形	終止形	連体形	假定形	命令形
かる	かつ、く	い	い	けれ	かれ

形容動詞（ナ形容詞）

活用	未然形	連用形	終止形	連体形	假定形	命令形
「だ」*	だろ	だっ、で、に	だ	な	なら	×
「だ」（丁寧体）	でしょ	でし	です	（です）	（ですれ）	×
「タルト」*	×	と	×	たる	×	（たれ）
「なり」*	なら	なり、に	なり	なる	なれ	なれ
「たり」*	たら	たり、と	たり	たる	たれ	たれ

- *「だ」:

- **特殊な連体形をもつもの** - 「同じだ」は二種類の連体形をもつ。即ち、格助詞「の」、接続助詞「ので」、「のに」に続く場合は「同じな」、体言に続く場合は「同じ」と活用する。後者を連体詞に分類する説もあるが、次項2.の理由からも、説明は難しい。「同じだ」のほかに「こんなだ」「そんなだ」「あんなだ」「どんなだ」などが、これに該当する。ただし、「同じ～するなら」のように、「せっかく、どうせ」の意味で使う「同じ」は、別語であり、これは副詞である。
- **連体形のみ存在するもの** - 「大きな」は、連体詞に分類する説が一般的である。しかし、他の連体詞とは異なり、被修飾語となりうる（例：「とても大きな」）性格を有する。また、元来「ナリ活用」の形容動詞だった経緯を考慮すると、本来は「大きだ」という形容動詞であると仮定し、その活用形のほとんどが退化し、連体形「大きな」のみが現代語として残り使用されているとする説明も、矛盾が少なく、弱説ながら捨てがたい。「大きな」のほかに「小さな」「おかしな」などが、これに該当する。

- *「タルト」：文語のタリ活用に由来するが、活用がかなり退化している。トタル型活用ということもある。具体例としては、「営営と」「堂堂と」「茫然と」など。学校文法の口語文法では、連用形は副詞、連体形は連体詞として扱われる。
- *「なり」：「～にあり」が短縮したものであるため、ラ行変格活用と類似の活用をする。
- *「たり」：「～とあり」が短縮したものである。

連体詞

体言のみを修飾することば（連体修飾語）。自立語、**活用はしない**。ほとんど修飾を受けないが、ごく一部が、副詞や体言の連用形に修飾される。

型式	例語	備考
「-の」 型	あの	「あの山は槍ヶ岳だ」では「山」を修飾する。 本来は「名詞」+格助詞「の」だったものが多い。「その」「どの」「この」「かの」「くだんの」「ほんの」「当の」「例の」など。 「ずぶのしろうと」の「ずぶの」もここにいれることがある。
「-が」 型	我が	「我が国」では「国」を修飾する。 の型と同様に、格助詞「が」を伴うもの。「われらが」「おらが」など。
「-る」 型	いわゆる	「1990年前後にはいわゆる冷戦体制が崩壊した」では「冷戦体制」を修飾する。 本来は動詞の連体形だったものが多い。「ある」「とある」「さる」「きたる」「あくる」「あらゆる」「いかなる」「なんたる」「かかる」「さしたる」「確たる」「最たる」「主たる」「名だたる」「単なる」など。「目くるめく」、「病める」なども連体形以外で使われることはまれで、ほぼ連体詞化している。
「-な」 型	大きな 小さな おかしな	「大きい」「小さい」「おかしい」の活用形ではない。 しかし、「目の大きい／小さい（人）」「頭のおかしい（人）」の「大きい」「小さい」「おかしい」と同様に「目の大きな／小さな（人）」「頭のおかしな（人）」と名詞修飾節の述語を構成しうる点で、他の連体詞とは異なる。「ひよんな」「いろんな」「異な」「あじな」「ろくな」など。「いかな」は「いかなる」が変化したもの。
「-ぬ」 型	あらぬ	「あらぬ方向に走る」の「あらぬ」は「方向」を修飾する。本来は動詞「あり」+否定の助動詞「ず」の連体形。「よからぬ」も現代語としてはこのタイプの連体詞とみなせる。
「-た (だ)」 型	たいした	例：たいした人物。 本来は動詞の連用形+助動詞「た」の連体形だったものが多い。「とんだ」「ふとした」「大それた」「れっきとした」など。
「-き」 型	くしき	「くしきえにし（奇しき縁）」では「えにし」を修飾する。本来はシク活用の形容詞[奇し]の連体形。「きたるべき」など。「あるまじき」「悪しき」などもこの種の連体詞とされることがある。本来は形容詞あるいは助動詞の連体形である。
「- いう」型	こういう	「こういうばあい」の「こういう」。「そういう」「ああいう」「どういう」など。

